

図画工作科 学習指導案

I 題 材 あっちから こっちから

II 考 察

1 教材観

(1) 育成を目指す資質・能力の三つの柱

③学びに向かう力・人間性等

小さなものや部分を拡大して見ながら、自分の表したいことを見付け、
絵に表すことを楽しむ態度

①知識・技能

自分なりに捉えた形や色の特徴に合わせて、
形や色の表し方を工夫する力

②思考力・判断力・表現力等

繰り返し対象を見て、形や色の特徴を自分な
りに捉える力

(2) 学習内容：学習指導要領上の位置付け

A表現

(1) 表現の活動を通して、発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

イ 絵や立体，工作に表す活動を通して，感じたこと，想像したこと，見たことから，表したいことを見付けることや，表したいことや用途などを考え，形や色，材料などを生かしながら，どのように表すかについて考えること。

(2) 表現の活動を通して，技能に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

イ 絵や立体，工作に表す活動を通して，材料や用具を適切に扱うとともに，前学年までの材料や用具についての経験を生かし，手や体全体を十分に働かせ，表したいことに合わせて表し方を工夫して表すこと。

(3) 本題材の学習とその価値

本題材は、蟻になったつもりで虫眼鏡で小さなものや部分を拡大して見ながら、自分の表したいものを見付け、自分なりに捉えた形や色の特徴を基に大きく絵に表すことを楽しむ学習である。その価値は以下のとおりである。

子どもたちは、休み時間にお絵かき帳などに自由に絵を描くことを楽しんでいる。しかし、感じたことや想像したこと，見たことなどを絵に表す際に、自分なりに捉えた形や色を自分の思い通りに描けないこともあるため、形や色をよく見たり、表したいことに合わせて表し方を工夫したりすることが必要である。そこで、興味をもって対象を見ながら、自分なりに形や色の特徴を捉え、絵に表すことができる本題材を設定した。

虫眼鏡を使って小さなものを拡大して描くことにより、意図的に見なければ捉えにくい小さなものや対象の部分の形や色をよく見て、画面上の配置やバランスなどにこだわらずに、繰り返し対象を見ながら絵に表すことができる。

また、虫眼鏡を使った蟻の視点で、普段見慣れている草木や身近なもの、気にもとめなかった小さなものを拡大して詳しく見直すことにより、新鮮な驚きや発見をもって対象の形や色の特徴を自分なりに見付けながら捉えることができる。

さらに、それぞれの虫眼鏡で描いているものを覗き合ったり、作品を見合ったりしながら描くことによって、対象を見る視点や見方によって形や色の感じ方が様々なことを見付けたり、表し方のよさに気付いたりしながら、絵に表す活動を楽しむことができる。

また、学習材の価値は以下のとおりである。

パスは、腕を大きく使って形を描いたり、手の延長として筆致の速さを調節したりし易い。また、乾燥を待たずに色を選んで塗り重ねたりすることができるため、対象を繰り返し見直しながら描くことを促すことができる。そして、発色が強く、重ねて色を混色することができるため、自分なりに捉えた色に合わせて色の表し方を工夫することができる。さらに、既習の描画材で扱い方に慣れており、線を描く、パスを横にして面で塗る、ぼかす、ひっかいて描くなどの様々な表し方を工夫することができる。

大きなダンボールは、中心が明確で、描きたいものを画面上の配置やバランスなどを考えずに直感的に描くことができる。また、細かな部分も大きくパスで描き込むことができる。そして、鑑賞する際に友達の作品と連結して屏風のように立てることができるため、子どもたちが作品に囲まれた中に実際に入って鑑賞することができ、蟻の視点を楽しむことができる。

(4) 今後の学習

ここでの学習は、4年「形や色をよく見てかこう」において、くすの木を中心とした風景の形や色の面白さを感じ取り、表現技法や色づかいを工夫して、絵の具を使って絵に表すことを楽しむ学習へと発展していく。

(5) 共通事項との関連 ※指導と評価の計画参照

2 児童の実態及び指導方針

子どもたちは、2年「おはなし 大すき」において、物語を読んで場面の様子を想像し、表したいことがはっきりと分かるように、表し方を工夫したり、パスや絵の具の扱い方を工夫したりして絵に表すことを楽しむ学習をしてきた。この学習の中で明らかになった子どもたちの実態及び本題材を進めるにあたっての指導方針は、次のとおりである。

- ① 表したい場面の様子を想像し、表したいことに合わせて、パスや絵の具で塗り分けたり組み合わせたりして描くことができた。このような子どもたちが、自分の表したいものの自分なりに捉えた特徴を基に形や色を表すことができるよう、繰り返し対象を見て自分なりに捉えた形や色の特徴を基に何度も描き直すことのできるパスと、画面上の配置やバランスを考えずに直感的に描くことのできる大きなダンボールを描画材として設定する。
- ② 物語を聞いて自分の表したい場面を決め、その場面にふさわしい生きものについて考えたり、場面の雰囲気や様子について具体的に想像を膨らませたりすることができた。このような子どもたち

が、自分の表したいものの形や色の特徴を捉えることができるよう、虫眼鏡で様々なものを拡大して見て、自分の表したいものの興味のある部分を見付ける活動を設定する。

- ③ パスや絵の具の使い方の工夫を試しながら想像を膨らませて絵に表すことを楽しめた。このような子どもたちが、形や色の特徴を見付けながら絵に表す活動を振り返ることができるよう、自分や友達作品を見合っただけで気付いたことや感じたことなどを紙に書いて伝え合う活動を設定する。

Ⅲ 目標及び評価規準

Ⅳ 指導計画 ※Ⅲ・Ⅳについては、指導と評価の計画参照

Ⅴ 本時の学習

- 1 ねらい 虫眼鏡で小さなものを拡大して繰り返し見ながら大きく描く活動を通して、自分なりに捉えた形や色の特徴を基に絵に表すことができる。
- 2 準備 虫眼鏡 パス ダンボール ウェブカメラ 電子黒板
- 3 展開

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点
<ol style="list-style-type: none"> 1 本時の活動の見通しをもつ。 <ul style="list-style-type: none"> ・花の真ん中のところはパスで塗ってから爪や割り箸でひっかいて描いていたよ。 2 自分の興味のある部分を、虫眼鏡で拡大し、見ながら描く。 <ul style="list-style-type: none"> ・こっちから見てみると星みたいだな。こっちから見てみると梅干しの種みたいだよ。 ・虫眼鏡でよく見てみると、細かいしわがたくさんあるよ。ひっかいてしわを描こう。 3 蟻になったつもりで、自分や友達作品を見合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・作品をどんな風に並べようかな。立てて並べたら、本当に蟻になったみたいだな。 ・僕と同じ木の実を描いている友達がいたよ。でも、形や色が違うな。こっちの作品はきれいな花の真ん中を描いているね。花ってこんな形だったんだね。 ・小さいものでも虫眼鏡で見て大きく描いたら、今まで知らなかった面白いところをたくさん見付けられて楽しかったよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○よく見て描くという学習の見通しをもつことができるよう、子どもの作品を紹介し、子どもが見付けた形や色の特徴について問いかける。 ○形や色の特徴を意識して見直すことができるよう、形や色の特徴について問いかける。 ○表したい形や色の特徴に合わせて表し方を工夫できるように、色を重ねて塗ったり、ひっかいて描いたりするなどパスによる表し方を変えている子どもを紹介する。 ○互いの見方や表し方のよさに気付けるよう、作品を自立させて鑑賞する時間を確保する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">評価項目</p> <p style="text-align: center;">自分や友達作品を見合いながら、見方の面白さや表し方のよさについて書いたり発言したりしている。</p> <p style="text-align: center;"><作品・行動・発言・学習プリント③></p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○題材を通して見いだした互いの見方や表し方のよさに気付けるよう、感じたことを付箋紙に書いて交流する時間を確保する。

指導と評価の計画（全4時間）

題材	あっちから こっちから			A表現（1）イ
目標	虫眼鏡で小さなものを拡大して表したいものを見付け、自分なりの見方を基にして絵に表す。			
評価 規準	(①知識・技能)対象を繰り返し見ながら、自分なりに捉えた形や色の特徴を基に絵に表すことができる。 (②思考力・判断力・表現力等)自分の興味のある部分の形や色の特徴を、自分なりに見付けることができる。 (③主体的に学習に取り組む態度)自分や友達の見方や表し方のよさを見付けたり、蟻の視点を考えながら小さいものを大きく描いたりすることを楽しんでいる。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法（観点）>
であ う ひろ げる ・ あら わす ふり かえ る	1	○虫眼鏡で小さなものや部分を拡大して見ながら、自分の表したいものを見付ける。	○自分なりに形や色の特徴を捉えることができるよう、虫眼鏡を用いて身の回りの様々なものを見ながら、自分の表したいものの興味のある部分を見付ける活動を設定する。	◇自分の興味のある部分を繰り返し見直したり、自分なりに捉えた形や色の特徴について発言したりしている。 <行動・発言②>
	3	○自分の興味のある部分を、虫眼鏡で拡大して見ながら描く。	○自分の興味のある部分の、自分なりに捉えた形や色の特徴を基に描くことができるよう、パスと大きいダンボールを描画材として設定する。	◇自分の興味のある部分を繰り返し見ながら描いている。 <作品・行動①>
		○蟻になったつもりで、自分や友達の商品を見合う。 (本時3/3)	○自分や友達の見方や表し方のよさや面白さに気付くことができるよう、気付いたことや思い付いたことを紙に書いて伝え合う活動を設定する。	◇自分や友達の商品を見合いながら、見方の面白さや表し方のよさについて書いたり発言したりしている。 <作品・行動・発言・学習プリント③>
共通 事項	ア 自分の表したいものを拡大して見たり、描いたりする活動を通して、形や色の特徴を感じ取る。 イ 自分なりに捉えた形や色などの感じを基に、自分なりのイメージをもつ。			